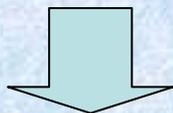


小児救急医療設立までの背景

- 岡崎市民病院は人口34万の医療圏に三次救急医療を受け持つ唯一の医療機関
- 多くの小児軽症患者の夜間の受診により、市民病院救急外来本来の**三次医療に支障が出てきている**。
- 小児の一次救急の受け入れが急務となった。



- 平成15年7月に小児救急医療体制整備に係る意見交換会を開催
(保健所・岡崎市民病院・岡崎市医師会が参加)

開始当時と現在の参加開業小児科医の年齢分布

年齢	開始当時	現在
30歳台	1名	0名
40歳台	4名	2名
50歳台	5名	8名
60歳台	4名	3名
70歳台	0名	1名
合計	14名	14名

一次(初期)救急医療の充実

平成16年6月1日

第1次救急医療機関である岡崎市医師会公衆衛生センター
夜間急病診療所に小児科医を配置

診療時間: 毎日午後8時～11時

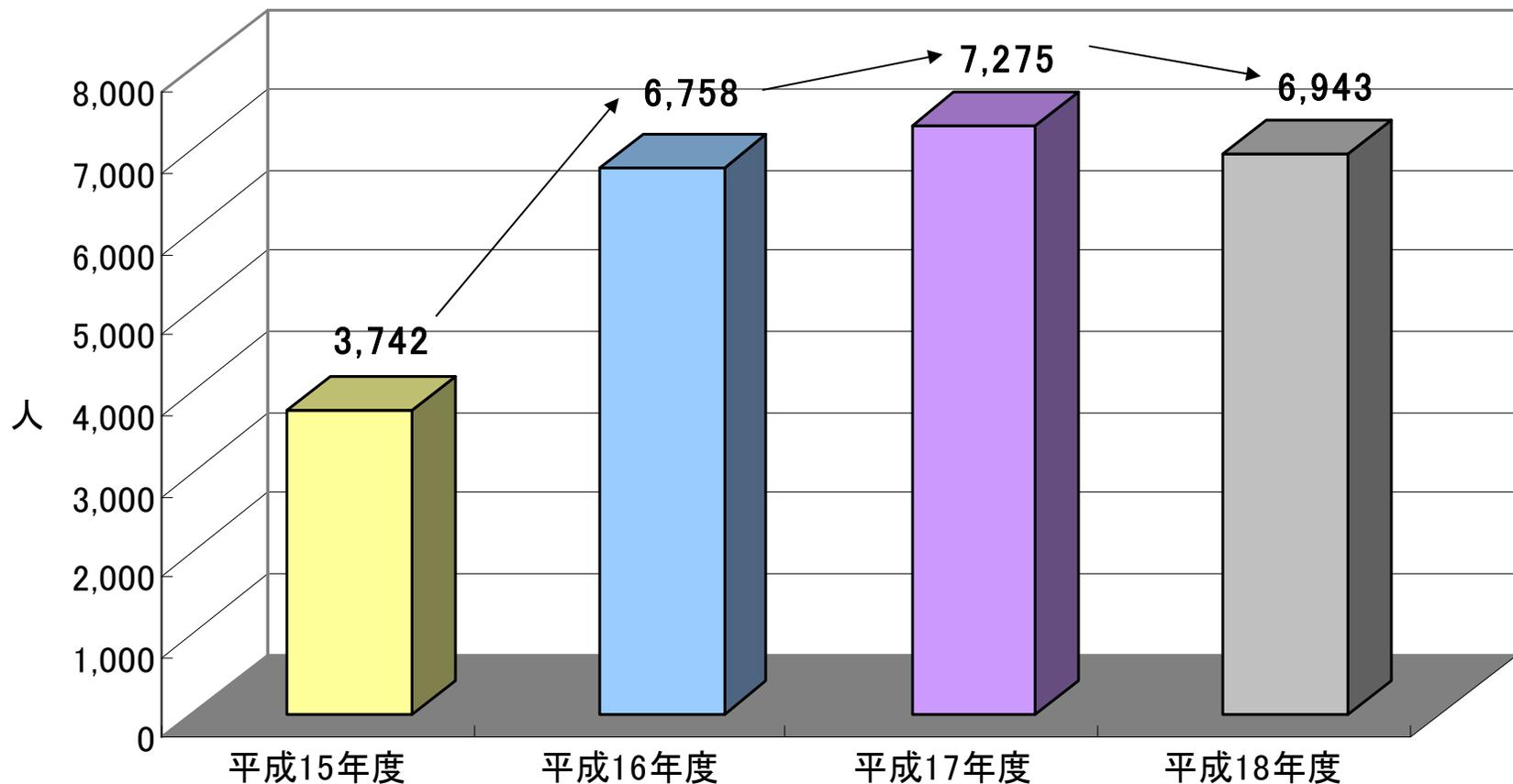
担当医師: 岡崎市医師会小児科専門医 14名

愛知県下3大学小児科からの派遣医師



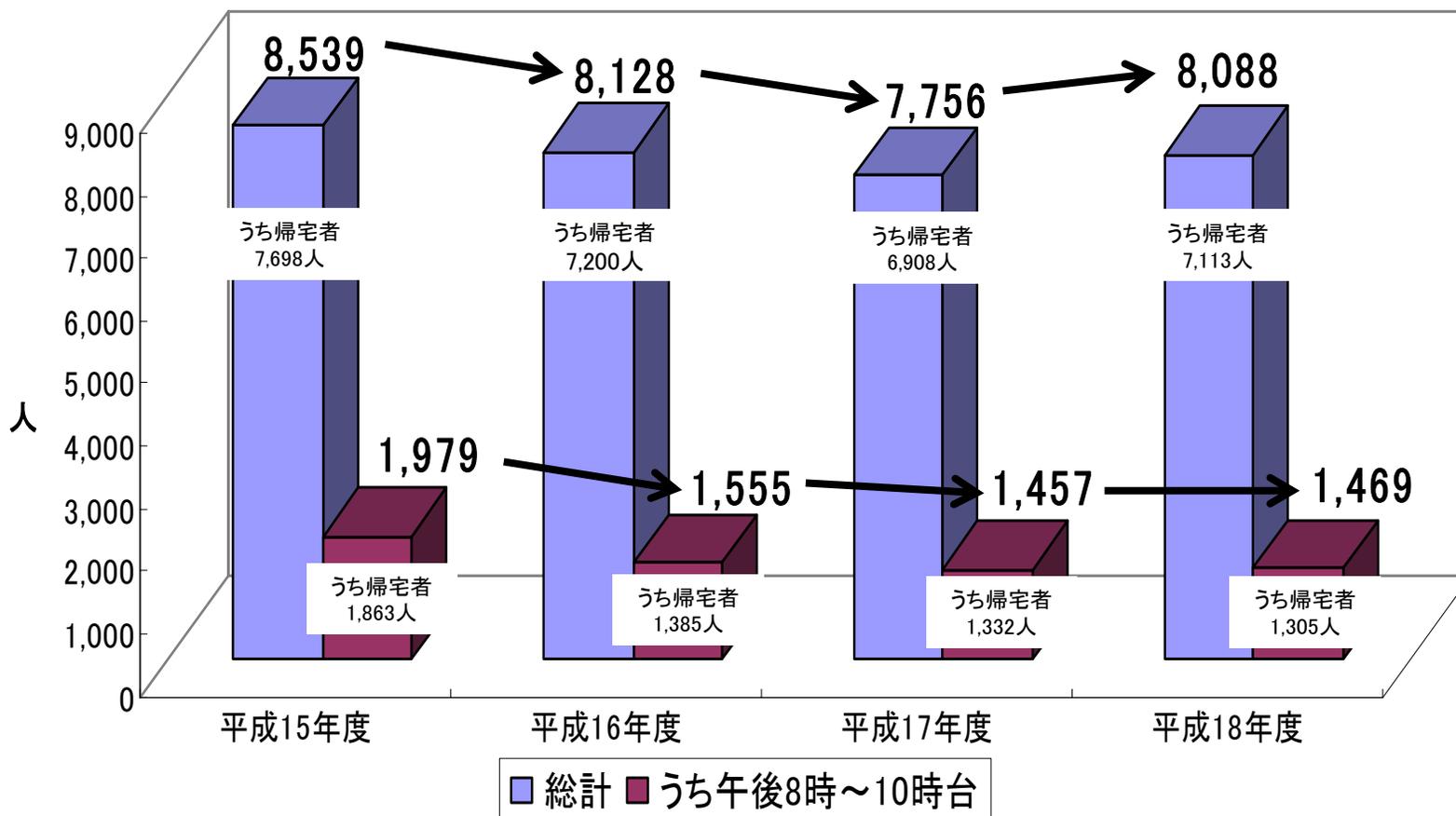
夜間急病診療所小児科受診者数の推移

夜間急病診療所小児科受診統計



市民病院救急外来小児科受診者数の推移

市民病院救急外来小児科受診統計



○平成16年7月24日 岡崎市小児救急医療対策協議会を設置

小児救急医療体制のあり方を総合的に検討し、その充実を図るため、岡崎市小児救急医療対策協議会を設置。

[協議事項]

- (1) 小児救急医療に関する情報収集及び分析に関すること。
- (2) 小児救急医療の情報の提供に関すること。
- (3) 小児救急医療体制の充実方策の検討に関すること。
- (4) 上記に掲げるもののほか、協議会の目的を達成するために必要な事項に関すること。

[委員数等] 当初10名 → 現在8名

当初：大学関係者3名、市民公募2名、保育・幼稚園関係2名、岡崎市医師会員3名
現在：市民公募2名、保育・幼稚園関係3名、岡崎市医師会員3名

岡崎市医師会夜間急病診療所月報(小児科)

平成19年度分

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
咽頭炎	187	210	300	260	199	148	112	112	268	1796
胃腸炎	80	87	53	30	42	35	35	56	160	578
気管支炎	51	52	48	29	18	22	32	70	82	404
じんま疹	19	30	24	35	27	29	26	19	31	240
気管支喘息	25	31	9	13	11	25	43	26	12	195
便秘症	15	15	10	11	8	16	19	8	13	115
腸炎	30	9	11	20	20	15	4	0	0	109
扁桃炎	13	4	24	12	9	2	10	7	12	93
ヘルパンギーナ	0	3	31	39	8	4	1	3	0	89
喘急性気管支炎	5	8	11	9	5	16	28	6	29	88
水痘	11	22	10	8	5	2	6	8	11	83
嘔吐症	9	9	2	1	4	5	2	12	22	66
急性中耳炎	3	7	6	6	3	5	5	6	16	57
溶連菌感染症	0	13	8	3	1	0	2	3	13	43
感染性腸炎	0	3	1	0	1	1	4	15	14	39
熱性痙れん	1	6	10	3	2	0	4	4	9	39
湿疹	2	8	2	2	7	2	3	4	7	37
亀頭包皮炎	0	6	5	5	4	5	2	4	3	34
突発性発疹症	4	2	4	4	8	2	3	5	1	33
脱水症	7	1	2	5	3	4	0	3	7	32

適正な受診及び利用へ向けての主な協議会事業

○子どもの急病！ガイドブックの発行

休日や夜間など、病院や診療所が休みの時に、急にお子さんの具合が悪くなったら

- ・ どうすればよいのか
- ・ 誰に相談したらよいか
- ・ 今すぐに救急医療機関へ行くべきか
- ・ 明日まで待つべきか

迷うことはないでしょうか。

このことを解決するひとつの方法として、平成17年3月に初版を発行し、平成18年3月に改訂版を発行しました。



ねつ

38.0℃以上の発熱



3か月未満

38.0℃未満でも、少し様子を見て
体温がさらに上がってくる場合は、
救急医療機関を受診してください。

3か月～6歳

- ① 元気がなく、ぐったりしている。
- ② おしっこが出ない。
- ③ 活気がない。
- ④ よく眠れずに、ウトウトしている。
- ⑤ 水分をとるのをいやがる。

救急医療機関 ^{P2参照}
を受診してください。

1つでも
「はい」
がある

1つも
「はい」
がない

時間とともに、具合が悪くなったら
救急医療機関を受診してください。

明日の朝など、かかりつけ医に
診てもらってください。

熱がなくて（ふだんよりも体温が低い感じの時）、ぐったりしていて
水分も受け付けない時。

発熱時の対処法

- ・熱の出始めは温かめに熱が出きったら涼しく!
- ・寒そうなら温かく、暑そうなら涼しくする。
- ・気持ちよさそうなら冷やす。
- ・熱があっても元気そうなら、解熱剤は使わない。

ねつ

ワンポイントアドバイス



看護の仕方

- わきの下の汗をふいてから体温を測りましょう
- 汗をかいたら体をふき、しめった衣服やシーツをかえましょう

- 食欲・元気さ・他の症状の悪化に注意しましょう

- 熱のために失われる水分を十分に補いましょう
- 手足が冷たく寒気があれば体を温め、温かな飲み物を与えましょう

- 風を当てないようにしましょう
- 高熱時は嫌がらなければ頭や首を氷枕・氷のう・おしぼりで冷やしましょう
- 室温・温度を快適にし新鮮な空気にかえましょう

- 朝晩の平熱を知っておきましょう
- こたつや電気毛布に暖まりながら測るのはやめましょう
- 熱に気づいたら30分後にも測りましょう
- 経過をみるため朝昼夕3回同じころに測りましょう



- お子さんに合った解熱剤の使い方をかかりつけ医に確かめておきましょう

○「おかざき小児救急フォーラム」 を開催

《目的》

保護者の皆様に救急医療体制等について理解を深めて頂くとともに、救急医療機関への適正な受診を図ることを目的とする。

《日時》 平成18年11月18日(土) 午後1時30分～4時

《会場》 福祉会館6階ホール

《参加者》 73名

《プログラム》

1.講演「子どものインフルエンザ」

花田 直樹(岡崎市小児救急医療対策協議会 医師)

2.シンポジウム「どうしたらいい? 子どもの急病」

座長 村山 憲(岡崎市小児救急医療対策協議会 医師)

シンポジスト

- 富田 博 (岡崎市小児救急医療対策協議会 医師)
- 大原真希子(岡崎市小児救急医療対策協議会 保護者代表)
- 長井 典子(岡崎市民病院 医局小児科循環器部長)
- 鈴木 若弘(岡崎市中消防署本署 救急救命士)
- 宮澤 孝彦(岡崎市保健所長)

3.小児の心肺蘇生法

消防署職員による実演及び参加者の一部も体験

おかざき小児救急フォーラム
～みんなで考えよう私たちの小児救急～

定員200名 (先着順)
入場無料 (小学生以下不可)

平成18年
日時 **11月18日(土)**
13:30～16:00 (開場13:00)

会場 **岡崎市福祉会館6階ホール(朝日町3-2)**
[駐車場]
西口体育館裏(岡崎市民病院の西側)
東口体育館裏(岡崎市民病院の北側)
*両駐車場とも事前予約が必要です。

プログラム

講演「子どものインフルエンザ」
講師: 花田 直樹 (岡崎市小児救急医療対策協議会 医師)

シンポジウム
「どうしたらいい? 子どもの急病」
座長: 村山 憲 (岡崎市小児救急医療対策協議会 医師)

シンポジスト

- 富田 博 (岡崎市小児救急医療対策協議会 医師)
- 大原真希子 (岡崎市小児救急医療対策協議会 保護者代表)
- 長井 典子 (岡崎市民病院 医局小児科循環器部長)
- 鈴木 若弘 (岡崎市中消防署本署 救急救命士)
- 宮澤 孝彦 (岡崎市保健所長)

小児の心肺蘇生法
消防署職員による実演及び参加者の一部(20名程度)も体験

お問い合わせ先: 岡崎消防署 総務課 電話 0564-23-0000
岡崎市小児救急医療対策協議会 / 岡崎市 / 朝日町

○岡崎市広報番組特集 「小児救急を考える」の放映

〔放映年月〕

平成18年12月(8日間)

〔放映の目的〕

全国的に小児救急医療現場の医師不足が問題となっているなか、岡崎市では平成16年6月に夜間急病診療所に小児科医を配置した結果、夜間急病診療所の受診者が急増しています。

しかし、実際には軽症の受診者が多く、本当に救急を要する子どもの待ち時間が長くなってしまいう現象が起こっています。

今回の特集では、小児救急医療の現場を様々な角度から調査し、私たち(保護者)がどのように小児救急医療を利用すべきかを考えてみたいと思います。

※ DVDの貸出し可

○出前講座

従来からの各種メディアを通じた啓発活動を継続するとともに、各保育園・幼稚園や子育てサークルなど、保護者の皆様が集まる機会などに出張(出前)し、ガイドブックのPR、「かかりつけ医を持つことの重要性」などについての啓発活動を行い、この小児救急医療体制を守り育てる環境づくりを推進する。

H20年2月20日が第41回目



平成19年度出前講座アンケート集計表(平成20年2月19日現在)

1 今回の講座に参加して、今後、夜間にお子さんが熱や腹痛などの症状があった時にどのようにしようと思われましたか？【該当するものに○(複数回答可)】						2 夜間急病診療所を受診する場合、もし受診前に電話相談(看護師さんや保健師さんが担当)でいろいろ相談できたりアドバイスをもらえれば、受診せずにすむ場合もあると思いますか？			
①日頃から「子どもの急病！ガイドブック」を読んでもらうと思った。	②救急医療機関を受診する前に「子どもの急病！ガイドブック」を読んでもらうと思った。	③微熱などの軽い症状の場合は、救急医療機関への受診を控え、様子を見て翌日にかかりつけ医を受診しようと思った。	④夜の方が混んでいないので、夜に受診しようと思った。	⑤昼間働いている保護者の場合、救急医療機関を利用するのはかたがたいと思った。	⑥やはり心配なので、まず救急医療機関を受診しようと思った。	①電話相談があれば、それですむ場合が多いと思う。	②電話相談ですむ場合が時々あると思う。	③たまにあると思う。	④思わない。
1,021	1,069	1,445	14	125	107	962	676	136	29



メニュー

- ◆ごあいさつ
- ◆3つのスローガン
- ◆守る会の歩み
- ◆情報コーナー
- ◆メンバー募集
- ◆メルマガ登録
- ◆お問い合わせ
- ◆リンク集
- ◆守る会のブログ

3つのスローガン

1. コンビニ受診を控えよう
2. かかりつけ医を持とう
3. お医者さんに感謝の気持ちを伝えよう

『医師は戦わない。ただ、黙って立ち去るのみ！』

一般的にはそう言われています。
しかし、柏原病院小児科は違いました。

「もうすぐ無くなるかも知れない」というサインが出されました。

私たち「守る会」は新聞を通じてこのサインを知り、
そして活動を始めることが出来ました。

幸い、小児科については「守る会」の活動のみならず、
様々な方面のお力添えにより、明るい兆しが見えてきました。
が、新聞には柏原病院は依然「危篤状態」だと書かれています。

医師が立ち去り、地域医療が崩壊してから声をあげたのでは遅いのです。
そうならないように全力を尽くす以外にありません。
丹波の医療を守るために何ができるのかを一緒に考えてみませんか？

現在の小児医療の問題点

- ① 不当な診療報酬の低さとフリーアクセスによる患者数の多さ
- ② 病院小児科勤務医の減少
- ③ 乳児医療無料化と救急外来のコンビニ化
- ④ 訴訟リスクとクレーマー